

(様式1)

校 種	小・中 どちらかに○	学校番号	4 0	学校名	宇都宮市立城山西小学校
-----	---------------	------	-----	-----	-------------

令和7年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重」の教育を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で、思いやりのある豊かな心を持ち、確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 情操豊かで、思いやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

2 学校経営の理念

本校は、平成17年度より「小規模特認校」に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、学校統廃合の危機を脱することができ、伝統ある学校として存続している。また、平成27年度の小規模特認校10周年を機に、「小規模特認校 第2ステージ ～新たな学校の創造～」の取組を展開してきた。

今年度は、小規模特認校20周年を迎え、原点回帰「子供たちの夢をつなぐ」「学校存続への感謝を込めて」を2本柱に本校が統廃合を乗り越えた時期の地域・保護者・学校の思いを受け、令和の時代に合わせた教育活動を展開する。

これらのことを踏まえ、今後、本校がさらに発展していくためには、縦軸（人材育成と伝統の再構築）の視座に立った協働の展開と横軸（確かな教育活動・特色ある教育活動と市内へのPR）の視座に立った持続可能な教育活動の展開が不可欠となる。PDCAサイクルを活かしながら活動の展開と改善を重ね、立体的な発展を遂げていきたい。

前述を踏まえ、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトとした本校の特色ある教育活動を推進し、特に以下の二点に力点を置きながら、「魅力あふれる学校」を創り上げる。

- (1) 「子供たちの夢をつなぐ」をキーワードに、使命感と愛情をもった教職員の教育力の向上、縦割り班活動を核とした兄弟のような児童同士のつながりの強化、学校・保護者・地域の協働による信頼関係の構築に努める。

(人材育成と原点回帰＜伝統の再構築＞)

- (2) 「確かな学力」をキーワードに、特色ある教育を活かしながら知・徳・体のバランスのとれた力を育む。その中でしっかりと学習し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を行っていく。学習指導と特色ある教育活動の両輪で本校独自の教育実践に努め、その活動を広く周知していく。

(確かな学力と特色ある教育活動の実践・市内へのPR)

そして、107人全員の笑顔輝く城山西小学校を目指すとともに、本校を希望して入学する児童数の維持・拡大に努める。

3 学校経営の方針

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため、教職員の適材適所を図り、本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また、教育者とし

ての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに、業務の効率化を図り、労働時間の適正化に努める。(学校運営の適正化)

(2) 児童のよさを認め励まし、自己肯定感を育み、一人一人の児童にとっての居場所づくりを行い、「誰一人取り残さない学校」の実現をめざす。(学級経営の充実)

(3) 道徳科の授業の充実に努めるとともに、地域のよさを生かした体験的な学習や読書指導、縦割り班（なかよし班）活動の活性化により、他人を思いやる心豊かでたくましい児童を育む。(豊かな心の育成)

(4) 学力の基礎・基本の定着を図り、それらを活用する力を育成するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学び自ら考える力の育成に努める。(学習指導の充実)

(5) 進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに、保健・安全指導の充実に努める。(体力向上と保健安全教育の充実)

(6) 学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら、小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。(魅力ある学校づくりの推進)

【城山地域学校園教育ビジョン】

ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

学校園内小中学校が連携し合い、地域の教育力を生かしながら、「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

新学習指導要領が全面実施となった前年度の反省を踏まえ改善を図るとともに、新学習指導要領の留意点を十分に生かした教育課程の編成に努める。

また、地域とともにある学校づくりを推進するため、地域協議会の意見を踏まえながら教育課程を編成し、開かれた教育活動を推進していくとともに、家庭・地域・企業等と連携し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の充実に努める。

(2) 留意点

- ・ 教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの充実に努める。
- ・ 学校マネジメントシステムを有効活用し、地域協議会委員の意見を生かした教育課程の編成に努める。
- ・ 学校便りの地域への回覧や、ホームページの適宜更新をととして、学校の教育活動に対する家庭・地域への積極的な情報提供を行う。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ・ 全職員による指導体制を確立し、報告・連絡・相談の励行に努める。
- ・ 多様な専門スタッフとの連携によるチーム力の向上を図る。
- 小中一貫教育の検証・見直しを行い、義務教育9年間を見据えた教育活動に努める。
- 業務を効率化し、労働時間の適正化を図る。

(2) 学習指導

- 読む力、書く力、聞く力、話す力など、「学力の基礎基本」の確実な定着を図る。
- ・ 一人一台端末を活用した授業や家庭学習を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図る。
- ・ 教材やICT等を効果的に活用しながら、「はつきり」「じっくり」「すっきり」を踏まえた授業展開を図る。
- ・ 児童の多様な考えを教師が適切にコーディネートしながら、探索的な学び合いの充実に努める。
- 教科等横断的な視点で教育課程を編成し、SDGs等の現代的な諸課題に対応できる力

を育む。

- ・ 地域の人材が活躍できる場を積極的につくり、体験的な学習を意図的・計画的に位置づける。

(3) 児童生徒指導

- 日々、気持ちのよいあいさつが飛び交い、時と場に応じた言葉を交わし合う学校を目指す。
 - ・ 「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」態度を生活に根付かせる。
 - ・ 道徳科の授業の充実に努め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
 - ・ 高学年が低学年の児童を兄弟姉妹のように面倒を見るという伝統を大切にしていく。
- 宇都宮学や地域の教育資源の活用に積極的に取り組み、郷土を誇りに思う気持ちを育てる。
 - ・ 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通して、児童に達成感や成就感を味わわせ、たくましさを滋養する。

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

- 地域学校園内小学校で統一した各種検定カードや教科体育を通して、体力の向上と運動に親しもうとする態度や能力の育成に努める。
- ・ 感染症予防について正しく理解し、適切な行動がとれる児童の育成に努める。
- ・ 食農体験を通した食育の推進に努める。
- ・ 交通安全指導や避難訓練等を通して、児童の危険予測・危機回避能力の向上に努める。

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

- ・ 思いやりにあふれた豊かなこころの育成
- ・ 地域のすばらしさを理解し、地域に貢献していこうとする態度の育成
- ・ 生き生きと自己を表現し、相手の思いを理解できる「聴く」態度の育成
- ・ 会話科や外国語活動、外国語科で培ったコミュニケーション力を生かした、自ら学び、考える力の育成

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

- ◇ 食と農に関連した学校農園活動
- ◇ 地域の自然や歴史・伝統を学ぶ時間の設定
- ◇ 地域高齢者や様々な分野で活躍する地域の方々との交流活動
- ◇ 表現力やコミュニケーション力を身に付けるための多様な活動（会話科、外国語活動・外国語科）
 - ・ 文化人の先生方との特色ある学習活動（◇「体幹を鍛える運動」を含む）
 - ・ 放課後活動（こがし桜スクール）との連携

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

① 基本的考え

学校の特色ある行事や地域の活性化につながる行事を、合同行事として共に実施す

ることをとおして、連携・協働を進めていく。また、各分野で活躍している地域の人材を講師としてお招きし、学習活動の充実を図る。

② 主な取組

- ・ 孝子桜まつり，古賀志山清掃登山，地域合同運動会等の実施。
- ・ 地域人材の指導による田植えや稲刈り，ホテル育成等の体験学習や，学校と地域の歴史に係る講話等の専門的な学習の実施。
- ・ 県立盲学校との合同行事の実施，社会福祉法人舘舘会との交流

(2) 小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

学校園内小中学校が連携し合い，地域の教育力を生かしながら，「自他を尊重し，郷土に愛着をもち，諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

② 主な取組

- ・ 学習の基礎基本（読む力・書く力・聞く力・話す力）の確実な定着
- ・ 「小中合同あいさつ運動」の推進

(3) 不登校対策

① 基本的考え

新たな不登校を生まないために，学校組織として不登校の未然防止に努めるとともに，不登校の早期発見・早期対応に努め，現在不登校の児童には継続的に関わり続けることにより改善を目指す。

② 主な取組

- ・ 魅力ある学級づくり
- ・ 欠席共有シートの活用
- ・ いじめ等対策委員会の活用
- ・ 関係諸機関との連携とケース会議の実施

(4) G I G Aスクール構想

① 基本的考え

1人1台端末を児童が適切に扱えるようにし，授業や家庭学習における文具の一つとして日常的に活用できるようにする。

② 主な取組

- ・ 「宇都宮モデル」を活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 端末の家庭学習での活用
- ・ A Iドリルの導入
- ・ I C T研修等による教職員のスキルアップ
- ・ 情報モラルの向上
- ・ I C T支援員の活用
- ・ 放課後活動（こがし桜スクール）における端末の活用

(5) 宇都宮学

① 基本的考え

宇都宮の歴史や文化，産業などについて，体系的な学習を行うことを通して，郷土への愛情や誇りをもてるようにする。

② 主な取組

- ・ 社会科の授業（3・4年生）
- ・ 「宇都宮学」副読本の活用

- ・「総合的な学習の時間」における地域の伝統やよさの発見